

特定非営利活動法人(NPO法人)

【通称：AAC21】

## 21世紀のカンボジアを支援する会

ASSOCIATION OF AID FOR CAMBODIA IN 21 CENTURY

【東京本部】〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-701  
TEL 03-3991-2854 FAX 03-3557-1213  
E-mail: info@aac21.net

【関西支部】〒665-0061 兵庫県宝塚市仁川北3-10-27 中野方

【カンボジア事務所】Phom Thmey, Sangkat Rokathom, Krong Chbamon, Komponspeu.  
Kingdom of Cambodia  
電話:(855) 12-519-114 (855) 12-467-604

【ホームページ】AAC21

検索

会報

幸福を、平和を、豊かな心を、  
カンボジアの友と分かち合おう



## アンコールワット

発行日 2011年（平成23年）11月1日

第61号

【年6回  
奇数月発行】

## 盛り沢山のスタディツアー、人数は27人

國學院大學国際協力サークル～優志～がカンボジア訪問



寄贈した井戸を囲んで記念撮影

9月7日～12日、國學院大學国際協力サークル～優志～のメンバー（27人）がカンボジアを訪問、井戸・サッカーゴール・学用品・苗木・お米などを小学校や夢ホームに寄贈した。



夢ホームでは果物などの苗木を植林

九月七日、カンボジア（プノンペン）に到着。八日～九日はバスでシエムリアップへアンコールワット観光。十日は夢ホームを訪問、植林や畑作りを手伝った。夜は子どもたちと一緒に食事、花火大会を行なった。その日は夢ホームに宿泊、男子は図書館、女子は子ども部屋の部屋に宿した。

十一日は、夢ホーム近くのタメイ小学校でミニサッカー大会を開催、サッカーゴールとボールを寄贈した。その後、井戸の贈呈式に出席、里子の家を訪問してプノンペンのホテルに戻った。夜はプノンペン市内の日本語学校に通う学生さんら十数名を招待、レストランにて交流した。

十二日は、二年前に井戸を寄贈したところのある小学校を訪問、学用品を配布した。その後、プノンペンにあるパンニヤサストラ大学を訪問、日本語授業を参観、学生と交流した。その日の夜、深夜発の韓国便で帰国の途についた。

さすが若い学生さんのツアー、盛り沢山の強行日程にもかかわらず皆さん元気で一週間のカンボジアライフを満喫していた。

来年は、もっと大人数で訪問を計画している。

## “生涯現役”を全うしたい

NPO法人 21世紀のカンボジアを支援する会 理事長 根岸 恒次

ばらばらでどういうつもりだ！」と、思ったに相違ない。

勿論、カンボジアの高齢者はそんな人ばかりではない。会報で度々紹介する、本会アドバイザーのリー・ソン国会議員や、トゥロン・メアリ元大使のように七十過ぎてもなお、

大学生の皆さんを連れ、カンボジアの農村に住む里子の家を訪問していたら、泥酔した老人がやってきて、学生さん達にからみ始めた。学生さん達は軽くいなしていったが、内面「遠い日本からあなたの方の自立をお手伝いするため来たのに、昼間から酔っ

現役で活躍している人たちもいる。カンボジア人としての誇りと品位を保ち、いつも笑顔で私達を歓迎してくださる姿勢に感服している。

要するにその人の心の姿勢が、残り少ない人生の終章を立派に全うできるか否かにかかっていることは、



農村では子どもたち全員が裸足で遊んでいた

ものだろうか。定年を過ぎたら「ただの人」なのに、まだ部長・課長のつもりでいるのだろうか。

六十五歳以上の高齢者が四人に一人になった。二〇三四年には三人に一人になるそうだ。高齢者・老人というだけで尊敬される時代は過去の

事になりつつある。超少子高齢社会では少ない若者が多くの老人を支えることになるから、当然若者からも、高齢者への反感、反発が噴出してくるだろう。高齢者の生き方、考え方が問われている。

かく言う私も、あと数年で高齢者の仲間入り。最近足腰が弱くなり、椅子から立ち上がるのに、「どっこいしょ！」と自然に声がでしまう年代だ。

しかし精神はまだまだ若いつもりだ。会社や組織から解放され、これからは、自由気ままに、存分とやりたいことをやっていこうと思う。特に、カンボジア支援の旗の元に参集してくださった皆様と一緒に、世のため人のため有意義な余生を送りたい。「生涯現役」が私のモットーだ。



立派なネームプレートができた

## 4つの小学校に手押しポンプ式井戸を4基贈呈

写真展～カンボジアの子どもたち～

現地での活動内容を多くの皆さまにお知らせし、理解と協力をお願いするため、東京都内で写真展を開きます。ぜひ会場へ足をお運びください。

■日 時：12月6日（火）～18日（日）午前10時～午後8時  
■会 場：JICA地球ひろば（1F、企画展示スペース）  
■入場無料。いつでも、お気軽にお越しください。

JICA地球ひろば：東京メトロ日比谷線 広尾駅下車（3番出口）徒歩1分の所にあります。詳しくはお問い合わせください。



井戸の完成を喜ぶ子どもたち

## 札幌しらかばライオンズクラブがカンボジアを訪問

九月六日～八日、北海道札幌しらかばライオンズクラブの皆さん（三人）がカンボジアを訪問、四つの小学校に井戸を寄贈してくださった。また、夢ホームを訪問、お米を三袋寄贈してくださった。井戸は、同クラブ創立三十周年を記念して贈呈された。

訪問した四つの小学校には、井戸のほか、たくさんのお米を日本からお土産として贈呈した。

今回は二泊三日の短期訪問旅行だったが、来年あらためて余裕を持って訪問旅行を計画する予定とのこと。

## カンボジアの子どもたちをサポートしてください

## クメール教育里親会員募集

長かった内戦が終わって平和になったカンボジアですが、国の復興はなかなか進まず、大多数の人々は貧困に苦しんでいます。特に農村では、貧しかったり親を亡くしたりして学校へすら行けない子どもや、学校へ行けても途中でやめてしまう子どもが後を断ちません。

本会では、農村の子どもたちが学校へ行けるようにと、教育資金をサポートしてくれる里親さんを募集しております。思えば65年前、敗戦して焦土となった日本を救ってくれたのは、諸外国からの援助でした。カンボジアも食料援助をしてくださいました。日本の子どもたちもその恩恵を受け学校に行けるようになりました。豊かになった私たちが、今度は困っているアジアの子ども達を支援する番です。

※お友達グループや職場など、グループ単位でサポートしていただくこともできます。

【年会費】：子ども1人につき、1年間3万円。一括納入、分割納入（毎月2500円×12ヵ月）のどちらも可。所定の郵便振替用紙を使ってお振込みください。

【会費の用途】：学用品、制服、靴などの購入、学校への納付金、お小遣い、生活資金などに使われます。このほか、現地スタッフの給料、ガソリン代、事務所家賃など現地でかかる経費、通信費、印刷費など東京の本部でかかる経費として使われます。

【サポート期間】：最低1年間単位ですが、少なくとも子どもが学校を卒業するまでの期間、サポートしていただけたら幸いです。

【里子との交流】：里子からは年2回、近況を報せる手紙（日本語に翻訳）と写真が届きます。里親さんからの手紙、プレゼントも里子に届けることができ、心あたたまる交流ができます。現地で暮らす里子に会いにいくための旅行も年3回実施しております。

本会は皆様からの寄付金のみで活動しているNPO法人であり、公的資金（税金）は一切いただいておりません。



熱心に課題に取り組む生徒たち（右は榎戸さん）

熱心に課題に取り組む生徒たち（右は榎戸さん）

次回（夢ホーム）の専任講師を務め、自宅に工房を持つ榎戸徹彦さん（横浜市・里親会員）が、カンボジアの子どもたちを中心に鑄造によるアクセサリー作りの技術指導を始め、早くも三回目の講習会が行なわれた。九月二十日～二十四日、七人の生徒たちが夢ホームにある「夢工房」で講習を受けた。

今回は、前回の「クメール伝統文様のペンダント」の続きと「蟹」と「ネズミ」のうちから一つを選び製作した。

次回の講習会は十一月二十一日～二十四日、二十五日～二十七日は、勉強と観光を兼ね、専用バスにてアンコールワットを見学する予定。

### 第三回「鑄造によるアクセサリー作り技術講習会」（夢ホーム）



洗面器の底を溶接する中学生たち

板金加工で長年にわたり、日本のもの作りを支えてきた鈴木千雄さん（愛知県あま市・里親会員）が、カンボジアの子どもたちを対象に「もの作り技能講習会」を開き、子どもたちに喜ばれている。

九月六日～九日、第九回「もの作り技能講習会」が夢ホームにある職業訓練棟で行なわれ、八人の中学生が参加した。鈴木さんは隔月にカンボジアを訪れ、夢ホームや近所の子どもたちを相手に持ち前の板金技術を伝授している。

今回は、十一月に完成する予定の大型井戸で使用する洗面器を製作。大型井戸は、鈴木さんの資金提供により、コンボンチャム県にあるマンモス小学校（生徒数千六百人）に建設中。蛇口が八箇所あるため、作った洗面器を寄贈して役立ててもらう。

次回の講習会は、来年三月に予定している。

### 第九回「もの作り技能講習会」開催（夢ホーム）

## 9月はカンボジアの小学校に10基の井戸を設置

7月は1基のみだったが、9月は10基もの井戸をカンボジアの小学校に寄贈することができた。このうち5基の井戸の贈呈式に、寄贈者ご自身が出席した。残りの5基は、寄贈者に代わり根岸理事長が出席した。

カンボジアでは資材が高騰、ガソリンなどの燃料費も高止まりしている。本会は2003年より井戸を作り始めて以来、価格を15万円としてきたが、井戸を掘る現地の会社が値上げ申請してきたため、止むを得ず来年から、15万円⇒16万円に値上げさせていただくことになった。

皆様にご理解いただき、なお引き続きご支援いただければ幸いに思う。



きれいな水で手を洗う子どもたち

#### 9月に完成した井戸の内訳

寄贈者名	学校名	学校の所在地	生徒数
① 札幌しらかばライオンズクラブ	トロピアンバイ小学校	コンボンチャム県プレイチュ郡	432人
② 札幌しらかばライオンズクラブ	コンコル小学校	コンボンチャム県プレイチュ郡	395人
③ 札幌 マルサン塗料株式会社	タモープン小学校	コンボンチャム県プレイチュ郡	1099人
④ 札幌 岡本産業株式会社	クロイ小学校	コンボンチャム県プレイチュ郡	636人
⑤ 札幌西高校国際協力クラブ	チョー小学校	コンボンチャム県ロリアブ郡	139人
⑥ 札幌手稲高校家庭クラブ	プロネット小学校	コンボンチャム県ロリアブ郡	117人
⑦ 北海道 当別高校国際協力クラブ卒業生	チョムカースワイ小学校	コンボンチャム県サマキンチェイ郡	185人
⑧ 北海道 当別高校国際協力クラブ卒業生	クナイココッス小学校	コンボンチャム県コンボトロツ郡	129人
⑨ 國學院大學国際サークル～優志～	ブラムビーカラー小学校	コンボンスプー県プロムスロッ郡	775人
⑩ 岸和田コスモスライオンズクラブ	ストックカバッ小学校	コンボンチャム県ロリアブ郡	107人

※通算の井戸設置数は190基(2011年9月現在)

## 児童養護施設《夢ホーム》日記

### 靴を2足ずつプレゼント

神奈川県小田原市の中澤幸子さんから、子どもたち全員に靴がプレゼントされた。いただいた予算より安価で購入することができ、一人当たり2足買うことができた。9月下旬がお盆で、故郷へ帰る子どもは早速、新品の靴を履いて帰ることができた。



全員に運動靴2足プレゼント

### お米の寄贈相次ぐ

会報にて呼びかけたこともあり、9月は大勢の方からお米をいただいた。夢ホームを訪問した方からも寄贈していただき、感謝している。

寄贈してくださった方は次の通りです。

（順不動・敬称略、9月10日まで）

- ・札幌しらかばライオンズクラブ ・神戸ユネスコ協会
- ・國學院大學国際協力サークル～優志～ ・後藤航
- ・小原武次郎 ・近藤哲夫 ・左近茂美



たくさんお米をいただき、嬉しそう

### ミニサッカー大会で優勝しました

9月11日、國學院大學国際協力サークル～優志～の皆さんが近所の「タメイ小学校」にサッカーゴールを寄贈してくれたのを記念して開催した、ミニサッカー大会（4チーム参加）で、夢ホーム & 國學院大學チームが優勝した。



根岸理事長から優勝トロフィーを受け取るクーちゃん

■十年ぶりの大洪水

今年は日本も水害に見舞われたが、カンボジアでも十年ぶりに洪水が発生している。国道沿いの小学校は校庭が水浸し。あと少しで教室も浸水する勢い。空から見ると、あたり一面水浸しでびっくりにしたと、日本から来たお客さんが話していた。



### 車椅子で通学

コンボンチャム県の小学校を訪ねた時、車椅子に乗った少年を見かけたので、話を聞いた。現在小学校五年生（十一歳）、先天性の障害で、家から二十分かけて通学している。通学や学校生活は友達の手伝ってくれるそうだ。カンボジアには養護学校はないが、近所の子どもたちが手足になつてくれるから普通の小学校で学べる環境が整っているようだ。



## 懇親会（忘年会）を開催します

会員相互の親交を深めるため、忘年会を兼ねた懇親会を開催いたします。参加を希望する方は、事務局へお申し込みください。

- ◎日 時：12月10日（土） 午後1時～3時
- ◎会 場：レストラン「サンアロハ」（横浜・山下公園）
- ◎会 費：4千円（振込票にて事前にお支払いください）
- ◎申込先：電話にて03-3991-2854（本会事務局）
- ファクスの場合は03-3557-1213

＊お申し込みのあった方に会場への地図を郵送いたします。

■通称「日本橋」のバイパスは中国支援



NHK「プロジェクトX」で放送され、日本のODA支援の象徴とも云うべき、ブロンペン川のトンネルサップ川にかかる橋（通称日本橋）の交通量が増えたため、バイパスを作る工事が始まった。中国の支援を受けているという。橋ができるのは嬉しいことだが、昨今の時代の流れを感じた。

## 石川桂さんの協力で小学校校舎の建設始まる



日本の地鎮祭に当たるカンボジア伝統の着工式

愛知県安城市の石川桂さん（里親会員）が資金を提供し、カンボジアのコンボンチャム県で小学校の校舎（トイレ、机、椅子、黒板含む）建設が始まり、九月十四日、地元住民や生徒らが出席し着工式が行なわれた。式には石川さんに代わり、根岸理事長が出席した。

石川さんは、長年愛知県内で教師として勤務、校長を最後に退官した。石川さんは教育の機会に恵まれない、途上国の子どもたちのために学校を作ってあげることに生涯の夢だった。

偶然にも、石川さんが今年三月に井戸を贈呈した小学校（コンボンチャム県トロバントム小学校）は木造校舎のみで、教室が足りないため、三学年～六学年の生徒たちは他の小学校を借りて授業をしていることが分かった。石川さんは即決し、半年後の九月、校舎建設がスタート



敷地確保のため木造の旧校舎を半分壊して工事開始

した。完成は来年三月の予定。第二十九回「カンボジアふれあいの旅」の中で開校式を行なう。

## クメール教育里親基金活動レポート

「クメール教育里親基金」では九月末日現在、四百八人の貧しい子どもたちを教育支援している。

國學院大學の皆さんが里子の家庭を訪問したいということで、夢ホームに近い里子の家を訪ねた。

大半が砂糖椰子の葉っぱで作った屋根の家で、二十〜三十の家族が寄り添い、暮らしていた。国有地に住んでいるため、いつ、追い立てられるか知れないと、不安な生活の様子。里子の両親は、池で蓮根を取る仕事をしていた。収入は少なく、里親さんからの教育支援で子どもを小学校に通わせるのがやっとだという。

日本も決して楽ではないが、カンボジアの人たちは本当に大変な生活をしている。大学生は、この厳しい現実をどうとらえたのだろうか。



集まった村の子どもたち

### 里子家庭訪問記録

名前：ルエン・レエン	学校名：サンバックサットレイクメール小学校
年齢：10歳	学年：小学校の4年生
性別：男の子	
住んでいる場所：コンボンスプー県 ウドン郡 ヴィルボンコミュニティ	
所要時間（徒歩又は自転車）：徒歩：15分	
好きな教科：国語（特に読解が好きです。）	
苦手な教科：算数（特に掛け算の計算式を解くのが難しいです。）	
担任から一言：成績は、道徳：A、学校の活動：B、健康：A、出席：B	
家庭状況：5人の兄弟です。第2人、妹2人、ルエン・レエン君は長男です。父親がいます。母親がいます。現在、父親、母親と5人の子供で暮らしています。	

一日の過ごし方：朝5時に起きると、家の周りの掃除します。朝食は時々します。6時30分頃に、身支度をし、学校に行きます。授業が終わってから家に戻ります。昼食の後、下の兄弟の世話をします。夕食は家族と6時半頃にします。寝る前に、7時半から9時まで本を読んだり、学校で勉強したことを復習してから9時半頃に寝ます。

好きな遊び：サッカーをするのが好きです。

好きな食べ物：ライチー（カンボジアの果物）

将来の夢：医者になりたいです。

備考：

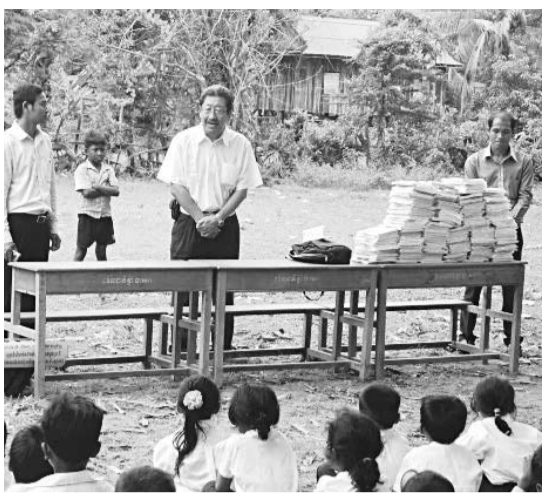
レエン君の家族の生活は村の他の人達と比べて大変苦しいです。家には田んぼがありません。田んぼの季節になった時、両親は他の人の田んぼで仕事をしています。一日、懸命に稼いでも、一日しか食べられません。時々、仕事がない日もあります。その時、家族の全員はご飯も食べられません。レエン君は一番上の子供です。それで、両親がいないときは、下の兄弟の世話をします。2011年度に里親さんのお陰で、小学校の4年生になります。学力は普通だそうです。



家の中で兄弟と座っているレエン君（左）

2011年9月19日  
担当者：メン・ソマリ

## 神戸ユネスコ協会がカンボジア訪問



小学校で挨拶する加藤会長

九月十四日〜十八日、神戸ユネスコ協会の加藤会長以下、六人がカンボジアを訪問して下さった。根岸理事長が案内した。

今回の訪問では、コンボンチュナンの小学校を二カ所回り、生徒たちに学用品を配布した。また夢ホームでは、お米を二百キログラム寄贈してくれた。

同協会は、近い将来、カンボジアに小学校の校舎を寄贈する計画があり、このたびの訪問旅行は、小学校視察の一環として実施された。幸い、校舎を切に必要としている小学校が見つかったので、今後、さらに計画を煮詰めていく予定だ。

## 神奈川県民センターで写真展を開催



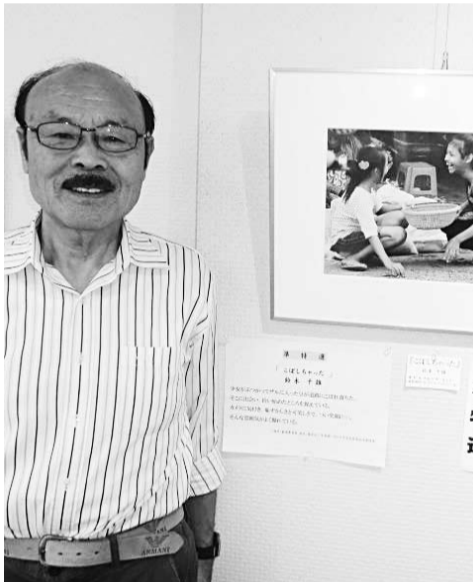
カンボジア支援3団体が共催して行なわれた

八月二十五日〜三十一日、神奈川県民センター・展示場（横浜市中区）で写真展「カンボジアのこどもたち」を開催した。本会のほか、國學院大學国際協力サークル「優志」と東海大学国際協力サークル「AIBEN」が共催した。

また、アンコールワット遺跡群の写真で著名な写真家、B.U.K.U. 齊藤さんの作品も展示した。「カンボジア王国大使館」も後援してくれ、オープニングには大使代理で山本特別補佐官が出席、お祝いの言葉を頂戴した。

会場は、同センターの一階にあって、人の出入りが多く、期間中、延べ七百人が来場してくれた。

## 日本叙勲者協会写真展で鈴木千雄さんが準特選



準特選の写真の前で

九月二十八日〜三十日、日本叙勲者協会主催の写真展が東京都港区「高輪区民センター」で行なわれ、鈴木千雄さん（愛知県あま市・里親会員）の作品が準特選に選ばれた。

作品名は「こぼしちゃった」。鈴木さんは「夢ホーム」での職業訓練指導の合間に近くの市場などに出掛け、写真を撮り続けている。市場で食事する女の子の表情が微笑ましいと、評価された。

## 石川桂さんの招きでカンボジアから五人来日



8月6日、安城市七夕祭りを見学

愛知県安城市の石川桂さん（里親会員）が個別に支援しているカンボジアの家族ら五人が八月三日〜八日、石川さんの招きで来日した。一行は、愛知県内を中心に観光、小学校などを視察、茶道体験、一般家庭での交流、歓迎会などを過ごし、八日の午前中、中部国際空港を後にした。

愛知県内の本会員である近藤銀一さん、三浦桂子さんが石川さんをサポートしてくださり、カンボジアの皆さんは良い思い出を胸に帰国した。

## 福井県高浜町で写真展を開催



写真展を企画した佃綱代さん

九月十八日〜十九日、福井県高浜町（和田地区）で開催された「路地祭り」にて、写真展「カンボジアの子どもたち」を開催した。高浜町在住の佃綱代さん（里親会員）が企画した。

同祭りは、町おこしの一環で毎年行なわれ、ガレッジセール、古着ファッションショー、コンサートなどにぎわった。

## 桑原淑子さんがロータリークラブで講話



講話する桑原淑子さん

カンボジア、コンボンスプー県の小・中学校で音楽をボランティアで教えている桑原淑子さん（福島県二本松市・里親会員）が八月二十四日、二本松市商工会館で行なわれた「二本松ロータリークラブ」の例会で活動を紹介、理解と協力を呼び掛けた。二十五日の同クラブ会員が出席した。

桑原さんは活動の継続を願い、機会あるごとに楽器の寄付などを呼び掛けている。例の席上、ハーモニカなどの購入費として同クラブ会長から浄財が贈られた。

桑原さんは、災害復興被災応援オペラ公演（十一月十二日、二本松市民交流センター）を企画している。入場は無料だが、整理券が必要。詳しくは桑原さんへ（0243・22・7907）

## お礼の手紙が届きました

原文はカンボジア語。現地のカンボジア人スタッフが日本語訳

私はセイ・スレイヴィンイの両親でセイ・ホックシム（父）、ゴーン・スリモン（母）と申します。

日本の教育システムには大きな学校があつて、先生達も経験いっぱい、生徒達に教えていることに感心しました。

また、日本人は貧しい人とお金持ちか、見分けが付きませんでした。

日本は工業、商業、農業と経済も発達しています。大きな国際空港もあって、電車も沢山走っています。スーパは地下にもあります。海の下に観光地があり、上の方には古い城があります。

カンボジアが発展する事を助ける日本と日本人の先生たちに感謝します。カンボジアに帰るいろいろな日本のことを親戚とカンボジア人に伝えていきます。カンボジア人と日本人の友情を今後ともお願いします。

日本を訪問するにあたり私の家族を支援してくださった石川桂様、本当に有難うございました。

娘のスレイヴィンイを支援してくださる石川桂様に感謝し、長生きしてくれる事をお祈りします。

今でも、私は安城市の素敵な景色を思い出しています。

投稿

檀戸さんと三林さんの活動を  
見て感激の今回の旅

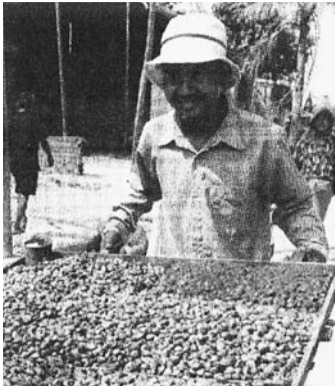
カンボジア訪問七月二十四日（日）、  
七月二十九日（金）

小原 武次郎



今回七月二十四日から二十九日までお米の寄贈と子どもたちとの交流を兼ねて「夢ホーム」を訪れた。「夢ホーム」は図書館や男子寮、スタッフの寄宿舎、21世紀の会の事務所が敷地内に建ち、初めて訪れた時より狭くなっているように感じた。図書館横の部屋では、檀戸さんのアタセサリーの職業訓練プロジェクトが二

炎天下の商売「干し貝売り」



干し貝を売るおじさん

平らな台のついた手押し車に、小さな貝をぎっしり並べて売り歩く。十一月ごろから五月ごろまでカンボジアの乾期には欠かせない街角の光景である。外国人にはちょっと手を出しにくい干し貝である。というより、食べるとすぐ下痢をする。カンボジア人は大好きである。スナック代わりに買う人も多く、午後にはどの手押し車も空っぽになっている。

（理事・関西支部長、中野勝）

回目を迎えていて受講生が熱心に取り組んでいる姿を目にすることができた。檀戸さんとは食事の時にいろいろお話を聞くことができたが、受講生たちがカンボジア独自の図案を作ったものを売って自立するためには、あと一、二年を要すると話されていた。

また、その段階で本当に作って採算がとれるかどうかとも未知数な所があるとも話されていた。しかし、カンボジアに来る人がカンボジアらしいアクセサリを求めるとなると、独自の図案（アンコール文化）のものがきつと必要になり、この受講生たちが作るものが売れるようになると思われる。私はこのプロジェクトがうまくいくよう祈る気持ちになった。

夜、夢ホームのゲストハウスでうとうとしていて、カンボジアの子どもの「日本語」が聞こえてきた。一日目はあまり気にならなかったのだが、次の日に日本語の声のする図書館をのぞいてみてびっくりした。

子どもたちの日本語は、なんと日本とカンボジアをインターネットで結び、画像と音声で双方向で行なわれている三林さんの「日本語教室」の子どもたちの声だったのである。

「夢ホーム」の小学生・中学生が熱心に日本語学習に取り組んでいるのに驚いた。クーちゃんに日本語で「どこから来られましたか？」と聞かれて、「日本の大阪です」と応えたが、だれがこのように話せる指導をしたのか分らなかったが、三林さんのインターネット回線を使った日本語授業の成果なのかもしれないなあ気が付いた。

今回の訪問で、檀戸さんの「職業訓練

＊トゥッサナーとは観察するという意味です。

貝はコンボンチャム、コンボンチュナン、コンボントム、カンダール、シエムリアップなどの各地でとれ、プノンペンの卸売業者に運ばれてくる。

材料となる貝は、真夜中の零時から一時ごろに各地からプノンペンの卸売業者に運ばれる。その時間に買いに行き、急いで干し貝を作り始める。手間がかかる。午前六時ころまで水に洗っておく。それからさらに何度も貝を洗い、塩や調味料をまぶして約一時間置く。最後に沸騰したお湯で一分ほど茹でて天日に干して出来上がりである。

売り始めるのは午前九時半ころから。売り歩く間にさらに天日で干され味が増すという。一日に二十キログラム、午後三時ころまで売り歩いても五ドル位の儲けだという。炎天下の商売は大変つらいと言っていた。

プロジェクト」や三林さんのインターネットを使った「日本語授業」を見学することができ「21世紀の会」の活動がカンボジアの地に根を張ったものになっているように感じた。

特に檀戸さんや三林さんの活躍を見て、ボランティアというよりミッシンに近しいものを感じた。

そういう意味では、今回私にとって二人の活動を見学できたことが、一番の成果だったのではないかなと思われる。お二人のようにいかないかもしれないが、これからは「夢ホーム」訪問と自分が出るボランティアを考えていきたいと思う。

（大阪府豊中市・会員）

投稿

バタンボン州訪問記

（二〇一二年七月一日～三日）

中野 勝

カンボジアには一市二十三州ある。バタンボン州は、首都プノンペンに次いで人口や町も大きく第二の州である。プノンペンから北西へ国道五号線を約二百九十km、カンボジア随一の米の産地でもある。

また寺院はアンコールワット王朝かそれ以前のもので、バナン寺院はミニアンコールワットと言われている。

さらに、ポルボト時代に造られた「コンピンブダイ湖」は十八km×八kmもある巨大ダムで、現代も農業用に利用されている。ポルボトが残した多くの負の遺産の中で、今でも人々に喜ばれ、利用されている数少ない一つである。

「クメールサーカス」も、バタンボン州を中心に、貧しい子どもを集めカンボジアの伝統的なサーカスや絵画、楽器ダンスなどを教えている。この敷地の中



宝石を採集する子どもたち

カンボジアミニニュース

現地で発行している新聞や情報誌から、カンボジアに関するニュースを紹介いたします。

カンボジア証券取引所がオープン

プノンペンカンボジア証券取引所がソフトオープンした。最初に上場する予定の政府系公社の準備が間に合わないため、実際の取引開始は今年末になるとみられている。

証券取引所が開設されたカナディアタワーでの式典では、キアット・チョン副首相が「証券取引所のオープンには、カンボジア経済の信用と透明性を高めるものだ」と挨拶。日系の「SBIプノンペン証券」などが、証券取引に携わる認可を受けた。

二〇一二年の経済成長率は六・八%

アジア開発銀行（ADB）カンボジア事務所が発表した「アジノモト」によると、二〇一二年のカンボジアの経済成長率は六・八%の見込みであるという。それによると、今年のカンボジアの成長率は六・五%であるが、現在の経済の勢いや観光産業や輸出、農業などが好転している状況を踏まえて来年の成長率が六・八とした。また、このままの状態が続けば二〇一三年も同じ水準の経済成長率を維持することができるだろうとしている。

フン・セン首相、インラック首相就任で対タイ関係の修復を期待

フン・セン首相は、タイで初めての女性首相になったインラック・シナワット氏が、カンボジアとタイの関係修復を、数多くの課題のうちの優先課題としてくれるだろう、という期待を示した。

フン・セン首相は閣議の中で、カンボジア・タイ国境に駐屯している政府軍に対し、今は静寂を保って今後の様子を見守るよう指示した。

こんにちは。アジノモト！

らぶら町を歩いていると、挨拶代わりに「アジノモト！」。

ここカンボジアでは、味の素が日本人の代名詞であり、日本人と思われる外国人に対して「コンニチハ」より「アジノモト」とニコニコ顔で声をかけてくる。それほど、味の素はこの国に根付いている日本文化なのである。

村の屋台、町のレストラン、そして一般家庭。さまざまなシーンで当たり前のように登場し、ご飯のふりかけ代わりからスローフードに至るまで、余す所なく大量の味の素が使われている。その使用量は日本の比ではなく、市場では一回用の小袋からお徳用1kgパックまで、山積みで売られている程である。

書き損じハガキ・未使用切手・商品券をお送りくださいませんか

本会では、書き損じハガキ・未使用の切手・ビールやデパートの商品券を集め、活動資金にしております。皆様の家に眠っているものがございましたら、ご協力くださいますよう、よろしくお願い致します。普通郵便で事務局へお送りください。

送り先：〒176-0011

東京都練馬区豊玉上2-25-7-701 本会事務局へ

事務局便り ■現地事務所では、セン・ソカー所長が一身上の事情

で7月いっぱい退職、代わりにニュー・ピン君をテスト採用しました。今年いっぱい彼の勤務状況を見て、良ければ来年から正式採用します。明るく、とても日本語が上手です。

■第19回ふれあいの旅は、22人参加して11月15日に出発します。その様子は次号会報にて、詳しく報告します。



26歳独身のピン君

11月～12月の予定

- 会報「アンコールワット」11月1日付第61号発行
- 第19回カンボジアふれあいの旅(11月15日～21日)
- 第4回コンボンズプー県小学校対抗サッカー大会(11月19日、現地の中学校校庭)
- 写真展「カンボジアの子どもたち」(12月6日～18日、JICA地球広場：渋谷・広尾)
- 第36回理事会(12月10日・12時～1時、横浜のレストラン「サンアロハ」)
- 会員懇親会(忘年会)(12月10日、1時～3時、横浜のレストラン「サンアロハ」)

活動に参加しませんか

ボランティアとして

学用品を現地の学校で配布したり、子どもたちと交流して下さるツアー参加者を募集しています。ツアーは、年三回実施しています。

クメール教育里親基金

農村の貧しい子ども達が学校に行けるようにと教育資金をサポートして下さる里親会員を募集しています。サポート金額は年間三万円(分割可)です。

会員とつな

- ・個人会員(年額一〇三〇円)
- ※来年度より五千元になります。
- ・法人会員(年額一〇二万円)
- ・里親会員(年額三万円)
- 会員の皆様には、隔月発行する本会の会報「アンコールワット」を発行の都度郵送します。会費の送付は、郵便振替、銀行振込み、現金書留で、郵便振替口座名、21世紀のカンボジアを支援する会(口座番号) 001300-0160916
- ※銀行振込をご希望の方は事務局へご一報ください。
- ※郵便銀行の自動引き落としをご希望の方は事務局へご一報ください。